

避難所運営を主にされていらっしゃるみなさま

このたびは甚大な被災について、心よりお見舞い申し上げます。
私たちは助産師の専門職能団体であります日本助産師会岩手県支部です。

これまでの阪神・淡路大震災、新潟中越地震を経験した多くの女性たちの声から、避難所で女性(小学生などの小さなお子さまも含む)に対する性暴力やセクシャル・ハラスメントが多数発生したことが報告されています。

すでに避難所内におきましては、一人でトイレ等には行かない等の措置をとっておられるところもあると思いますが、女性のみなさま自身、そしてお子さまの保護者や周囲の大人の方々におかれましては、今後も注意をし、行動いただきますようお願い申し上げます。

運営者のみなさまにお願い事です。

1. トイレを男女分けること
2. 授乳場所を作り見えないように囲うこと
3. 赤ちゃんのおむつ替えの時にも見えないように囲うこと
4. 更衣室を男女分けること
5. 夜間の一人歩きは大変危険です。絶対に、一人で歩かず、ないこと複数で行動すること
6. 有事の時だからと言って我慢して生活したり、頑張ってしまう体調を崩しがちになりますので、相談する窓口を多数作り、できるだけ女性の相談員を配置くださいますこと

以上を お願いいたします。

ある避難所では、当番を決めて見守り体制を作ったところもあるようです。

現在、厳しい寒さや支援物資の不足等、大変な状況であると思います。そちらの避難所内でできる範囲内での対応からまずはじめていただければ幸いです。

現在のガソリン不足の問題が解決した際には、私たちもそちらに伺い、子育て中のお母さま、女性のみなさま、ご家族のみなさま、またお子さまたちへの支援物資の供給、健康チェックや健康相談など、私たちができることを精一杯、行っていきたいと考えております。

遠方からではございますが、一日も早い復旧を心よりお祈りいたします。

なお、この情報は、もりおか女性センター、岩手大学男女共同参画推進室のご協力を得て作成いたしております。

日本助産師会岩手県支部

支部長

大坂 暢子